

(一財)大阪バスケットボール協会 御中

NPO 法人エコキャップ推進協会

理事長 矢部 信司



拝啓 平素はエコキャップ運動へご理解ご厚意を賜り誠にありがとうございます。
この度は、そのご厚意に対し、誤解を生じる対応を当協会が取ってしまった事を深くお詫び申し上げますとともに、皆様に経緯をご説明致したく、遅くなりましたがこの書面をお届け致しました。

皆さまのお立場から致しまして、この活動に参加されておられる方々からのご質問・ご叱責にお困りになっていることと存じます。
このことに関しましても大変申し訳なく深くお詫び申し上げます。

一女子高生の「ペットボトルはリサイクルされるのに、何故キャップはごみになっちゃうの」という素朴な疑問からスタートした、エコキャップ運動は横浜市の小学校の児童達が自主的に地域に啓発活動を行ったことをきっかけとして、小舟から瞬く間に大きな船となりました。その成長を支えてくださった皆さまに、活動の力点を前年度限りとはいえ障がい者支援に向けることとしたのか等を説明すべきでした。これが今回、皆さまに誤解を招いてしまった原因だと反省しております。

当協会では、キャップを捨てずにリサイクルをすることを通じて、環境意識やリサイクル意識を高めていただくことが第一の目的でした。その過程で、キャップをリサイクル事業者様に購入いただくこととなり、その代金をどのように使うかが課題となりました。議論の結果、売上代金を途上国の子供たちのワクチン代として使っていただくことを決めました。

現在は、リサイクルによる売上の一部を被災地支援にも寄付をしており、自然災害についても考える機会を提供するなど、当活動の目的が、さらに一段進化した。したがって、現在の当活動の主目的は、キャップのリサイクル活動を通じて、環境や貧困をはじめとした世界の課題・地域再生、障がいをお持ちの方々への自立支援活動などについて学ぶ機会を提供することを第一義とし、社会の変化に応じて、その範囲も広がっていくと考えています。

その中で、第7期(2013/9/1~2014/8/31)に限りましては、障がい者施設との連携を構築し、キャップリサイクルにおける重要な作業工程を、障がいをお持ちの方々にご担当頂く事で雇用の創出に繋がる「エコステーション構想」に取り組みました。

ご提供いただいたエコキャップは、受領報告のための計量や異物の除去、粉碎作業など、リサイクルするための前処理として必要な行程があります。こういった作業を知的障がい等で就労の機会を得ることの出来ない方々に行っていただくことで、就労と社会参画の場を作る事が出来ます。

これが現在全国各地に設置されつつある「エコステーション」です。
この構想は、障がい者支援という意義だけでなく、全国各地のエコステーションに地域の企業・学校等から直接持ち込んで頂く事によって、キャップ提供時の送料削減を実現できるという意義を併せ持ちます。

これまでのご協力に感謝申し上げますと共に、今なお途上国が抱えている医療不足の問題に向き合い、支援活動を展開していく為、今後もエコキャップ運動の柱のひとつとして継続的にワクチン等医療支援の活動を行って行きたいと考えております。具体的には、国際支援を行う国際 NGO 団体等を予定し、準備を進めております。
この他にも、エコキャップで得た売却益は、国内外にこだわらず皆様にご納得頂ける使い道を考えて行きたいと思っております。

これからも皆様からご提供いただいたエコキャップとあたたかな思いを大切に運営していきたいと思っておりますので、今後もエコキャップ運動をご支援いただきたくお願い申し上げます。
また、ご協力いただいております方々からのご質問等がございましたら当協会までご連絡いただきますよう宜しくお願い致します。

4月10日朝日新聞の記事掲載の後から、ご提供の皆様から当協会にいただきましたご質問をまとめたものを、Q&A形式にして添付させていただきました。ご一読いただければと存じます。宜しくお願い申し上げます。

以上

お問い合わせ先

〒231-0023 横浜市中区山下町 252

グランベル横浜 3階

TEL045-900-0294

FAX045-900-0295